

図書館だより

- | 特集 空気と戦争
- | 展示紹介
- | 新刊紹介
- | 図書館員の本棚



杉並区立中央図書館
2021年8月号

空気と戦争

毎年、夏がくると思い出すあの戦争のこと。

70年以上経った現在でも多くの人が思いをはせ、二度と繰り返さないようにと祈っている。今回、若い世代にも読みやすく、戦前、戦中、戦後、そして現代の世の中の「空気」を感じることできる本を集めた。



マンガ水木しげる伝

水木しげる／著
講談社コミッククリエイト 2004.11 請求記号：BYミ

言わずと知れた日本を代表する妖怪漫画家の第一人者、水木しげる。戦時中、南方ラバウルに出征し、爆弾の破片で傷を負い、左手を失う。その後水木の所属する部隊には“玉砕命令”が出た。次々と倒れる仲間たちの中、奇跡的にも生き延びた彼はどのようにして助かったのか。凄惨な現実ながらもどこかゆるい空気の漂う「水木節」を炸裂させながら戦前、戦中、戦後を描く自伝的作品。(上、中、下巻あり)



図説 第二次世界大戦（新装版）

太平洋戦争研究会／著
河出書房新社 2019.8 請求記号：209.7タ

第二次世界大戦においてどのように世界が戦争に突き進んでいったか、そのころの日本ではどのようなことが起こっていたかなど、世界の動きを貴重な写真などを交えて解説している。また、戦後に行われた東京裁判（極東国際軍事裁判）にも触れ、読み応えのある内容となっている。



敗北を抱きしめて

第二次大戦後の日本人（増補版）

ジョン・ダワー／著 岩波書店 2004.1
三浦陽一・高杉忠明／訳 請求記号：217.6タ

2001年に日本で発売され、日本人がどのように第二次世界大戦での敗北を受け入れ生きてきたかをアメリカ人の視点から描いている。本書は2001年の増補版であり貴重な写真が大量に追加され、より読みやすく当時の空気をイメージしやすいものとなっている。(上下巻あり)



140字の戦争—SNSが戦場を変えた

デイヴィッド・パトリカラコス／著 早川書房 2019.5
江口 泰子／訳 請求記号：319ハ

ソーシャルメディアは21世紀の戦争をいかに変容させたか。SNSの世論への影響力と、それが戦争にどのような影響を与えるのかをまとめた一冊。SNS時代がもたらした戦争／紛争の姿が描かれる。そこには、真実を伝える者、フェイクニュースを作る者、それから守る者たちの戦いがあった。戦争は今やSNS抜きには語れない。ただしそこには正しい情報だけとは限らず、事実を見極めるのが困難になってきている。著者はそんな現状を第一次世界大戦前の世界になぞらえ、その危険性を指摘している。



戦

後

現

代

戦

前

戦

中

世界遺産 ～地球の記憶～

先日、世界遺産の登録認定が行われる世界遺産委員会が開催されました。世界遺産の話題で盛り上がるこの時期を楽しみにされている方も多いのでは。様々な角度から世界遺産を見て知り理解する、そんな図書を紹介します。

展示期間
8/6 (金) ～ 9/1 (水)

ユネスコ世界の無形文化遺産

709
マッシモ・チェンティーニ / 編著
岡本 千晶 / 訳
原書房 2019.10
請求記号：709 チ

ユネスコ世界文化遺産は、歌舞伎などよく知られたものや、地域に密着した行事などバラエティーに富んでいます。世界各地の文化が躍動感ある写真で紹介され、読者を圧倒します。

世界自然遺産見て歩き

成り立ちが分かれば「風景」が変わる

455
古儀 君男 / 著
本の泉社 2020.7
請求記号：455 コ

地球上多数存在する自然遺産のうち、筆者が訪れた26ヶ所が紹介されています。旅行記としての要素に加え、写真・図表もふんだんに使われており、自然の姿・雰囲気が感じられます。



本 de Voyage

展示期間
7/2 (金) ～ 9/1 (水)

温泉

旅に出たくてもままならない、今……。

そんな時だからこそ、行きたいあの場所のことを知っておきませんか？

歴史や地理、グルメ、特産物、その場所を描いた小説等あらゆる角度からご紹介いたします。いまだからこそ、旅の予習をしてみませんか？



沖縄

長野

旅する文学

展示期間
7/2 (金) ～ 9/1 (水)

読んでいだけで時間を、そして空間を行き来できるのが読書の喜びのひとつ。飛行機に乗らなくても、ここではないどこかへ行ける本を集めました。世界を「文学」で旅してみませんか。

極北へ

Y 277
A イ
石川 直樹 / 著
毎日新聞出版 2018.3 請求記号：277 イ



写真家で冒険家の著者が20歳で成し遂げた北アメリカ大陸の最高峰「デナリ山」登頂から、2度目のデナリ山登頂までのエッセイ。極寒の地に生きる人々の暮らし、厳しくも美しい自然への畏怖。人間の野生を呼び覚ます圧倒的な世界との出会いを瑞々しい文章で綴る。

新刊紹介

中央図書館に入った新刊本をご紹介します！

蛇の言葉を話した男

アンドルス・キヴィラフク / 著 河出書房新社 2021.6
関口 涼子 / 訳 請求記号：993 キ



主人公は、蛇語を話す唯一の青年。古の文化と近代社会の摩擦、エストニアの歴史や政治の風刺を絡めた、退廃と郷愁ただようファンタジー長編。

オーバーヒート

千葉 雅也 / 著 新潮社 2021.7 請求記号：913.6 チハ



東京から大阪に移り住み、京都で教鞭を執る哲学者であり作家の「僕」。「言語は存在のクソだ！」と豪語しながら、言語について思索する大阪での日々、「僕」を取り巻く時間と人々を鮮やかに描く。

見つける東京

岡部敬史 / 文 東京書籍 2021.7
山出高士 / 写真 請求記号：291.36 オ



東京には「すずらん通り」が15か所以上ある。「環一」～「環六」はどこを通っているのか。間違えやすい「青梅駅」と「青海駅」…。東京の「多様性」「歴史の多層性」の面白さを、写真を用いて紹介する。(TRC MARCより)

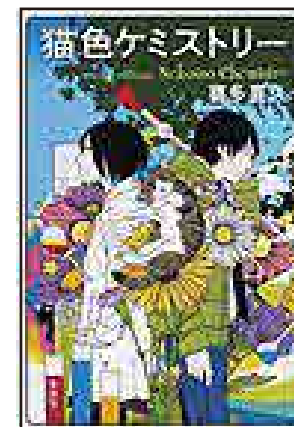
図書館スタッフのおすすめの本を紹介するコーナー

図書館員の本棚



猫色ケミストリー

喜多 喜久 / 著 宝島社 2012.4
請求記号：913.6 キタ



たまたま居合わせた男女2人と猫1匹の魂が入れ替わるストーリー。計算科学専攻の大学院生で、人付き合いが苦手な菊池明斗。有機化学専攻の同級生、辻森スバル。

落雷が原因で明斗の魂はスバルの体へ、スバルの魂は猫の体へと入れ替わってしまった。今までのろくに人と話してこなかった明斗がスバルのフリをできるのか。新たな事件が発生し、犯人探しもすることに。果たして2人と1匹は元に戻れるのか—。

面白いのが、“猫”と魂が入れ替わってしまう点だ。猫の特性を使いこなし犯人探しをしていく展開が、今までのミステリーとは一味違う。読みやすい文体で、誰が読んでも楽しめる。

『猫色ケミストリー』は“有機化学ミステリーシリーズ”の第2弾として人気を博した。他には『ラブ＝ケミストリー』『ラブ＝リプレイ』があり、いずれも化学の話が出てくるが、わかりやすい説明がついている。どの作品もミステリーあり、ラブコメありで、読んだ後に心が温かくなる。ぜひ読んでみていただきたい。

8月のカレンダー

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	2	 3	 4	5	6	7
8	9	 10	 11	12	13	14
15	16	 17	 18	19	20	21
22	23	 24	 25	26	27	28
29	30	 31	1	2	3	4

詳細は
なかよしつうしん
をご覧ください。

 : おはなし会

 : あかちゃんタイム

開館時間

月～土 9:00～20:00

日・祝 9:00～17:00

休館日 第1・第3木曜日

緊急事態宣言下につき、必ずマスク
着用をお願いいたします。

長時間のご利用はお控えください。

詳しくは、図書館カレンダー、
図書館ホームページをご覧ください。

所在地

〒167-0051

杉並区荻窪3-40-23

☎ 03-3391-5754

公式HP



図書館だより

2021年8月1日

杉並区立中央図書館 発行